

第10回全国書写書道伝統文化大会  
総合の部

主催 一般社団法人日本書字文化協会  
共催 公益財団法人文字・活字文化推進機構  
後援 文部科学省他

【文部科学大臣賞】

東京都・青梅市立第二中学校1年  
関口 美夢

2月10日のインターホン

ピンポン。家中にインターホンの音が響いた。普段何気なく耳にしている音。だが、この日の音はいつもと違った感じがした。

電報です。と渡された中を開くと、受賞の知らせだった。ん？私が？総合の部で？急すぎて内容が頭に入らなかった。

先生に何の作品での授賞かを聞くと、冬休み中の作品だった。今、冬休みを振り返ってみると、本当に大変な日々だった。学校からの課題や宿題、部活もあった。最終的にコロナ禍で合唱コンクールは中止となったが、本番に向けてピアノ伴奏の練習もたくさんやっていた。難しい曲だったが、弾けるようになり、やり遂げたこと、弾く楽しさを改めて知った。

塾も重なり、習字の特訓を終え、車中で夕食をとり、そのまま塾へ向かう。塾ではテストと宿題のプレゼント付き★(T\_T)。

それらが詰め込まれ忙しい日が続いた。そりゃあもう辛いなんてもんじゃないですよ。本当。行きたくない、やりたくないってこともありましたよ。だけど、1つずつ取り組んでいくと、あっという間でした。

あのインターホンから私の意識は一段と上がった。今まで以上にもっと気持ちを込めて書きたいと思った。

この度は文部科学大臣賞という大きな賞をありがとうございます。この様な賞をいただけたのは、今までの積み重ねや、年末年始でも送迎等支えてくれた家族、そして指導して下さった先生方のお陰です。ありがとうございます。

そしてインターホン。あっ、また鳴った。けれどやっぱり違う。2月10日のインターホンは私に何か教えてくれた。ハッキリとしたことはまだ分からないが、教えてくれたことを見つけるため、今日もまた、文字を書く。